



愛隣幼稚園..... 園だより 13. 9月号

子どもたちに必要なものは

暑くて長い夏休みでした。お母さんたちにはやっと戻ってきた穏やかな(?) 日常に“ほっと”しているというところが本音でしょう。お疲れさまでした！夏期保育で久しぶりに会った子どもたちは、夏休みの間に背丈が伸び、日に焼けて大きく遅くなっていました。嬉しくなりました。そんな子どもたちの傍らには、これまた子どもたちに負けにくい日に焼けた母たち。白い肌こそ価値があるという時代なのに、これに逆行するその姿。「先生、自分のことなんか構って暇ないのよ！」そんな答えを返してくれたお母さんに、「わっ、このお母さんもそんなこと言っちゃうんだ」とさらに嬉しくなりました。(あっ、日に焼けていないお母さんたちを批判しているわけではありませんよ。) 子どもたちのために楽しい夏休みを本当にありがとうございました。

私がこんなに嬉しくなったり、ありがとうと言ったりするのはちょっとおかしい感じがしますか？実はこれからの子どもたちのことが心配なのです。ずっと以前の園だよりも書きましたが、大人の都合とニーズに比べて子どもたちの生活が27年の4月から大きく変わろうとしています。「子ども育て新システム」というものが始動します。例えば、大部分の幼稚園で早朝から夜間まで、そして土曜日と長期休みの期間も保護者の必要に応じて子どもを預かることとなります。同時に幼児教育の無償化ということも実現しそうです。(正式には消費税のことが決まってからのこととなりますが) そろそろこの準備のために千葉市でもすべての幼児を対象に“ニーズ調査”というものが行われます。千葉市内に預かりを利用したいと考えている家庭がどのくらいあるのか、どのような施設を利用したいと考えているのかなどの調査です。しかしこれはあくまで大人の都合の調査でこれを基に1年半後には、小さな子どもがいても働きやすい環境が整備されているものと思われまます。ですからお母さんが働くということになれば、たとえ幼稚園でも早朝から夜間まで、そして長期休みでも子どもを預かってもらえるのです。これは朗報です。と言いたいところですが、本当にそれでよいのでしょうか？やはり愛隣幼稚園は悩んでいます。どなたか子どもたちにも“ニーズ調査”をしてはくさいませんか？子どもたちの声は聞こえてこないのです。

生まれて間もない子どもがおっぱいを飲みながら「ね～お母さん。こっち見て！ぼくはお母さんのこと見てるのに。」(おっぱいを飲んでいる時の赤ちゃんがよく見える焦点距離にお母さんの目はあるそうです。でも、お母さんはテレビを観たり、携帯に夢中だったりちっとも目が合いません。)
「ね～お母さん、お母さんが作ったハンバーグが一番好き。作って作って。」(「今日遅くなっちゃったわ、チン！でいいわね。」・・・ずっとずっとチン！だよ、お母さん。)
「ね～お母さん、えほんよんで」(「自分で読めるでしょ！」) お母さんのお膝でお母さんに読んでほしいのに～『ね～ね～ね～ってばあ、お母さん大好き！お母さんのぎゅ～が好き！抱っこしてよ～』これは子どもたちの声の一部です。応えていない大人がいます。大人のニーズが満たされれば満たされるほど、大人たちが子どもたちのニーズに応えることは難しくなっていくようです。しかし、この「ね～ね～」に答えてくれる一番身近な大人(お母さんやお父さん)との間に揺るぎない信頼と安心の関係を築くことは、この時期にしかできません。さらにこの信頼と安心という土台無くしては、未来を担う子どもたちの健やかな育ちは保障できません。正にこの幼児期にかかっているのです。「ね～お母さん」という子どもに応えてくれる大人はなくてはならない存在です。これからは社会が子どもを育てる時代だと言います。しかし、その社会とやらがしてくれることは、今のところたかが知れていると私は考えています。親が子に注ぐ愛情には到底及ばない程度のことを一律に提供することしかできない、限界があると思っています。

だから嬉しかったのです。子どもに負けにくい日焼けしたお母さんたちの笑顔は、子どもたちの幸せを映しているように見えました。やはり私たちはお母さんやお父さんたちと一緒に子どもたちの声に耳を傾けていきたいと思っています。声の大きい大人の都合ばかりが優先されるのはいかがなものかと思っています。